

## 1 事業委員会

委員長 福田 幸則



千葉県建築士事務所協会の事業委員会の事業計画は、次のものです。

親睦事業に関する事項・会員、賛助会会員交流・親睦会に関する事項・建物見学会の企画・開催・全国大会に関する事項について。

千葉県建築士事務所協会会員(社員も含む)と、協会の賛助会員との交流を深め、全国大会等や、研修・見学会等の企画を行っています。

今年は新型コロナの影響で全国大会は、中止とし、協会賛助会員との交流を深めるため、研修・見学会を熊本城や賛助会員の工場等の見学会も中止にしました。

今後は、新型コロナの影響を加味し、計画を立てて行きます。

協会の賛助会は、本会の目的に賛同し、事業を支援、協力、賛助する団体、法人の担当者によって構成されています。

その賛助会員と連携しながら事業の企画・実施を行っています。

会員企業訪問・懇親会の席・見学会や賛助会で主催する、賛助会まつり・チャリティゴルフなどにより相互の情報交換を深め、情報交換等を活発に展開する事によって、設計の先にいる発注者に最新情報を網羅した設計が出来るスキルの研鑽の場の提供を図りたい。

また、賛助会と協力して建築士に新商品や工法などの情報提供を行うとともに、千葉県建築士会の総会・新年会等には企業PR時間やコー

ナーを設けて、最新情報や、商品開発、研究成果を建築士とともに実現・普及活動、販売促進に協力しています。

さらに、この活動を広めることにより、企業の社会貢献を高めたいとお考えの方々のご意見をお待ちしています。

なお、今年は新型コロナの影響を加味し、なるべく三密にならないよう、賛助会員と、計画を立てて行きます。

一級二級木造建築士定期講習の開催・管理建築士講習の開催・開設者管理建築士のための建築士事務所の管理研修会の開催・新規登録開設建築士事務所に対する講習会の開催・適合証明技術者登録講習会の開催については、事業委員会や、法定講習WGで、会員及び非会員に向けての、色々な講習会や研修会などを計画し、三密を避け随時開催しています。

デザインに関する事業(建築展・学生賞)に関する事業については、デザインWGで、デザインに関する建築展や学生賞に協力しています。

また、賀詞交換会、総会後の懇親会、賛助会まつり、チャリティゴルフ、全国大会や、勉強会・研修・見学会等を企画開催し、多くの会員の方や賛助会の人と混じり親睦を深め、和気あいの協会を目指し、会員拡大の手助けになると良いと思いますが、今年は新型コロナの影響を加味しつつ、会員のお手伝いのできる事業委員会を目指し、運営していきたいと思ひます。

## 2 広報委員会

委員長 田端 友康



広報委員会は、主に①広報誌「かすがい」の発行や「会員名簿」や「入会のしおり」などのリーフレット・パンフレット製作といった紙媒体の情報提供と、②WEBによる発信として「協会サイト(ホームページ)」を担当しています。

活動は、ほぼ毎月の委員会にて「かすがい」の編成会議、原稿依頼、原稿チェックなど行い、記事については取材をおこなっています。パンフレットなどについても不足分の印刷発注や改新の準備をおこなっています。サイトについては、運用内容を確認しながら改善もしくはリニューアルを検討しています。

昨年は、広報誌「かすがい」の147号・148号・149号を発行しました。

今年は、会員名簿と150号の発行を行い、この151号の発行に至っています。年内に152号をお届けする予定としています。

また、若い会員を増やすため「入会のしおり」の新デザイン版を今年設立した青年委員会とともに作成していく計画です。

充実して活動的な会であることをお伝えするためにも、会員の皆様より情報提供や取材協力・寄稿などお願いすることもあると思ひますので、その際は快く執筆をお願い致します。

## 3 景観まちづくり委員会

委員長 出堀 義夫

### 景観まちづくり充電中 遠くなる海岸線



前を通ったら昭和の時代を色濃く反映したお座敷「玉川」の解体が終わっていた。

お座敷の正面には海が迫っていたという。玄関から緩い斜面で玄関に向かい、玄関の前には3段の階段があるのでお座敷は海への眺望や高潮などの被害を考えてのことだろう。座敷の下の半地下階はRCの土台になっている。海岸に面した建物の「よすが」は消防署の建物の背後にあったため想像されにくい。

話は飛ぶが、船橋小学校の図画の代用教員でもあった画家「椿貞雄」が昭和23年11月に本町にあった自宅に人生の師ともいえる実篤を招いて歓待している。大正10年築の「玉川」があった昭和4年には画業の師・岸田劉生に対して船橋芸者を本町の自宅に呼んで歓待したというが、おそらく人生の師ともいえる実篤の場合には自宅の歓待の白樺同人や椿の家族の写真は残っているが、宴席向きであるため割烹旅館「玉川」が利用された可能性は少ない。

景観まちづくり委員会も集まって活動がしばらくこの時期だからこそ、住んでいるまちの将来を見据えるなど流されないための個々の充電の時期とした。



上:解体前の玉川

左:玄関のレベル 右:半地下の壁 (6月撮影)